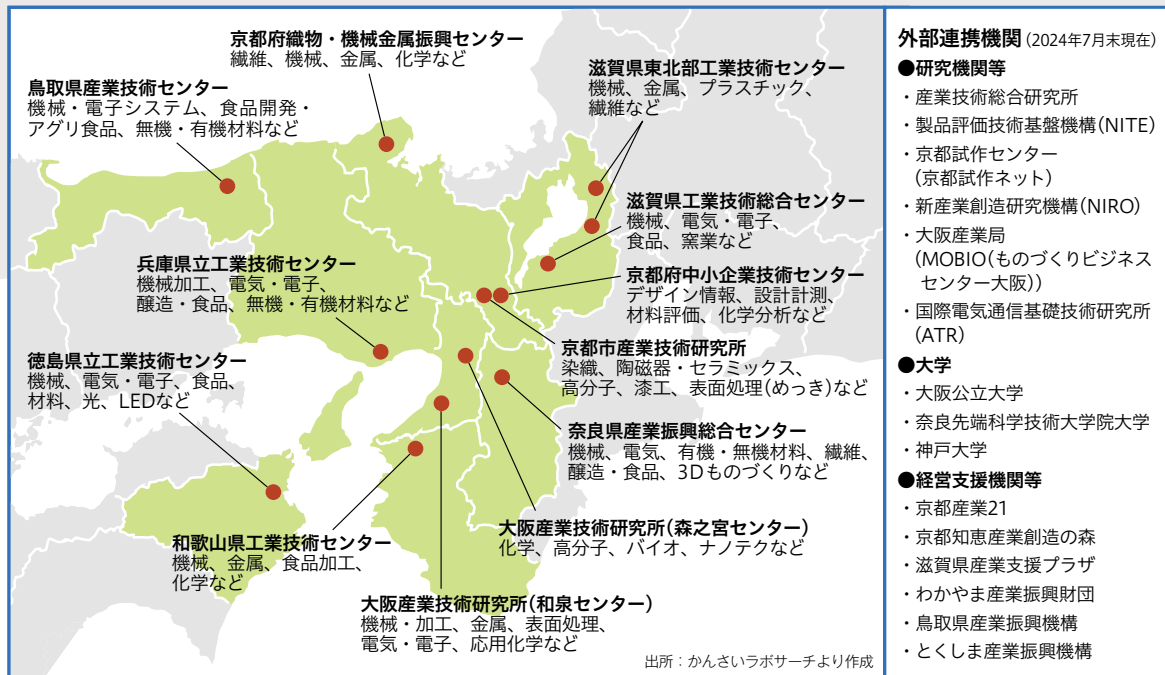


図1 関西広域産業共創プラットフォーム参画公設試と各公設試の得意分野・外部連携機関



# お役に立ちます！ 関西広域産業共創プラットフォーム ～第1回「関西広域産業共創プラットフォーム」とは？～

関西には数多くの研究開発拠点や研究支援機関が集積している。なかでも各府県に立地する公設試験研究機関（公設試）は、身近な技術の相談窓口として中小企業の支援を行っている。この公設試を中心に連携をはかり、研究・試作から事業化までトータルなサポートを関西広域で実現するため、2022年に関西広域連合により「関西広域産業共創プラットフォーム」（事務局：関経連）が設立された。

今号を皮切りに4回シリーズでお届けする「お役に立ちます！ 関西広域産業共創プラットフォーム」では、プラットフォームをより身近に感じていただけるよう、そのサポート内容や実際の活用事例などを紹介していく。

## 関西広域産業共創 プラットフォーム設立の背景

### 公設試験研究機関の連携を軸とした事業

「関西広域産業共創プラットフォーム（以下、プラットフォーム）」は、関西全体の産業競争力強化を目的に、経済界も協力する形で2022年11月1日に関西広域連合により設立された。関西各地に設置されている公設試の連携を軸に、オール関西による一体的な支援体制を構築することで、イノベーションが生まれる環境の強化をはかろうという、全国でも例のない新しい取り組みである。

当会は関西広域連合設立以降、繰り返し広域行政による産業政策の深化を提案しており、プラットフォームに関しても後述のとおりその仕組みの

原型を提案したほか、関西広域連合とともに検討を重ねるなど構想段階から深くかかわってきた。こうした経緯もあり、当会もプラットフォームの事務局の役割を担っているほか、技術の専門家である統括ディレクターや連携コーディネーターの派遣にも協力するなど、その運営を支援している。

## 公設試とは

### 地域の身近な支援機関

プラットフォームの具体的な紹介の前に、まずは公設試について簡単に説明しておく。

公設試は各都道府県に立地しており、身近な技術支援機関として、主に中小企業にとって自社での解決が難しい課題に対して助けを得られる「モノづくりの駆け込み寺」のような存在となっている。技術上のさまざまな問題や悩みが相談できる「技術相談」、公設試に設置されている機器を利用して試験研究や検査を行うことができる「機器・設備利用」、成分分析等の依頼ができる「依頼試験・分析」、さらには、公設試の研究者とともに新技術の開発ができる「共同研究・受託研究」と、その支援メニューは多岐にわたっている(表)。

公設試の魅力は、地域に根差した支援機関であること。特に各地域に根づいた産業分野に関する研究テーマがそれぞれの公設試の得意分野となっていることが多く、具体的な成果につながるサポートを受けることができる。また、高額な機器や設備が必要な検査・分析作業を比較的安価に依頼できるのも利点。加えて、その検査・分析手法に関する指導を公設試の技術者から受けられるため、企業の人材育成に役立つというメリットもある。

### 地域密着ゆえの課題も

一方で、地域ごとに立地していることから比較的小規模であることが多い公設試には、それに起因する課題も存在する。技術者の数が限られているため、相談窓口を担当する技術者が多数の案件を抱えることになり、ほかの研究開発業務に時間を取れないことはその一つである。

また、自所での対応が難しい相談案件については、他機関を紹介するという対応が取られる場合があるが、その多くは技術者個人の人脈に頼ったもので組織的な支援体制が構築されていないこと、さらに試作や事業化支援などに関しては、設備や職員の専門領域の違いから、対応が難しいといったことも課題としてあげられる。このような状況を改善する一策として、公設試の取り組みを補完する仕組みの構築は不可欠であった。

## プラットフォーム設立に向けた働きかけ

こうしたなか当会は、2015年にドイツに訪問団を派遣し、フラウンホーファー研究機構などの公的研究機関が研究開発から事業化への「橋渡し」をして企業の技術開発を支えていることが、同国の製造業の強さの一因であるとの知見を得た。

そこで、この仕組みを参考に、関西に立地する公設試の連携に加え、他の研究支援機関も巻き込んだ協力体制を構築し、研究・試作から事業化までのトータルなサポートを行うことが、関西のモノづくり力の強化につながるとして、当会は関西広域連合に対し公設試の連携強化の必要性を訴えた。その後も関西の各公設試、わが国最大級の公的研究機関である産業技術総合研究所(産総研)関西センター、近畿経済産業局等へのヒアリングを実施し、具体的なプラットフォームのあり方を提案していった。

こうした働きかけの結果、2022年11月にプラットフォームが設立した。

表 公設試の主な支援メニュー

技術相談	専門研究員が企業の課題を丁寧に聞き取り、適切なサービスへつなぐ
機器・設備利用	分析・測定・試験・試作・加工に対応できる機器・設備を専門研究員による技術サポートを受けながら利用できる
依頼試験・分析	企業の依頼に基づき、原材料や製品の品質確認、生産工程でのトラブル対策などに必要な分析・測定・加工等各種試験を行う
共同研究・受託研究	研究成果を積極的に公表、企業への普及や技術移転に努める
人材育成	講習会・セミナー等を多数開催



## プラットフォームは こう活用すべし！

### プラットフォームの特長

#### 関西地域内外の幅広い機関と連携

プラットフォームには、関西広域連合域内の11の公設試が参画している。また産総研、NIROといった研究機関、大阪公立大学や奈良先端科学技術大学院大学をはじめとする大学等とも連携体制を築き、各機関の強みを生かして技術開発から事業化まで幅広く、中小企業を中心とする相談企業の課題解決に一役買っている(P.2図1)。

プラットフォームの最大の特長は、豊富な専門知識を有し、大手企業での研究開発プロジェクト責任者経験等もある統括ディレクター、そして10名の連携コーディネーターが窓口となり、企業と各公設試や連携機関との協働の要となることである。

#### 幅広い分野の相談への対応が可能、

#### 費用面でもメリットあり

関西各地の特色ある公設試が連携しているプラットフォームだからこそその特長が、幅広い分野の相談への対応。最寄りの公設試では取り扱っていない分野の相談であっても、プラットフォームが窓口となることで、対応可能な他府県の公設試にスムーズに取り次ぐことができるようになった。

加えて、これまで他府県の公設試の機器を利用する際に必要だった割増料金が、プラットフォーム域内の公設試を利用する場合には不要となり、企業の負担軽減につながっている。

#### 試作や事業化にも対応

プラットフォームでは、製品の試作や事業化に向けた支援など、モノづくりのさまざまな段階での相談に対応している。これまでも、連携機関である京都試作センターが受け皿となって試作に対応した事例や、プラットフォームが公設試のシーズと企業ニーズをマッチングしたことで、社会実装に向けた取り組みが進んだ例などがある。

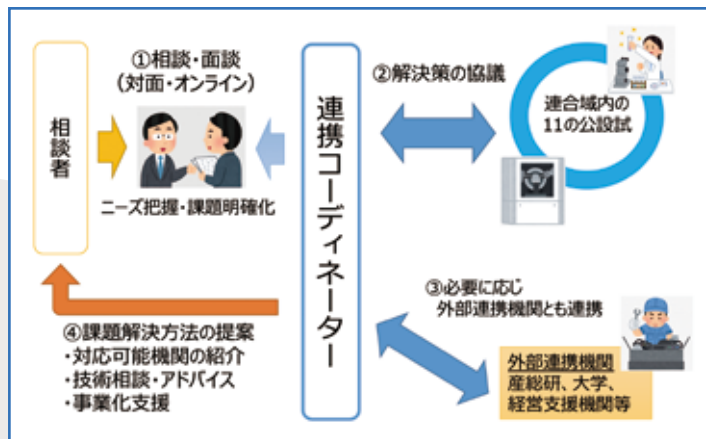
### もし相談したら——基本的な流れをご紹介します！

「プラットフォームに相談したい」となったら、まずはプラットフォームの公式ホームページ「かんさいラボサーチ」(P.5図3)にアクセス。サイト内の専用フォームに相談内容を入力・送信することがファーストステップとなる。次のステップは、相談者の大半が行う統括ディレクターや連携コーディネーターとの面談(図2の①)。面談はオンラインでの実施も可能で、相談者の悩みや製品の課題等をより詳細に把握するため、複数回行われることも、現場で製品の状態を確認しながら行われることもある。面談を通して技術的な課題や問題点が整理できると、統括ディレクターや連携

コーディネーターが、各公設試の実務担当者等と解決策を協議する(図2の②)。また、必要に応じて外部連携機関とも連携し(図2の③)、最終的にプラットフォームとして最適と考える解決方法を相談者に提示する(図2の④)。

プラットフォームがめざすのは、相談者と公設試の単なる「橋渡し役」ではなく、相談者と一緒に課題を明確化し、粘り強く解決策を探っていく「伴走者」のような存在である。

図2 プラットフォーム利用イメージ



## 好評の声多数。お困り事はぜひプラットフォームにご相談ください！

プラットフォームを利用した企業からは、「これまで接触したことが無かった公設試と連携することができて、良い機会になった」「公設試の紹介だけでなく、相談内容のわかりやすい伝え方についてもアドバイスをもらえた」など、高い評価が多数寄せられている。

先述の「かんさいラボサーチ」では、相談受付のほか各公設試で対応できる試験・分析(対応分野サーチ)や、試験・分析機器の保有状況(機器サーチ)などを検索することもできる(図3)。モノづくりでお困りのことがあれば、ぜひプラットフォームの利用を検討いただきたい。

次回以降のシリーズでは、プラットフォームを利用したことで課題解決につながった企業等の事例を紹介していく。

(産業部 奥田則之・松本信夫)

図3 かんさいラボサーチのサイト



Kansai Lab Search

<https://www.k-labsearch.jp/>



📄 ご相談は「かんさいラボサーチ」のページから

- ・メール相談、オンライン面談、対面相談 どの方法でも対応可能です！
- ・相談は何度でも無料です。
- ※公設試や外部連携機関で設備利用・依頼試験、共同研究等の有料メニューを利用される際は各機関が定める費用がかかります。

🔍 公設試のことがわかる、機器を探せる、便利な検索機能もあります

**対応分野サーチ**  
一各公設試が得意な分野が探せる一

対応分野一覧


19種類の分野ごとに、対応可能な公設試の検索が可能

**機器サーチ**  
一利用目的から公設試の機器を探せる一

利用目的を選ぶ

どんな形をしているのか観測したい	+	限界試験をしたい	+
どんな元素でできているのか分析したい	+	環境試験設備を使いたい	+
どんな分子でできているのか分析したい	+	電池開発の設備を使いたい	+
結晶構造や表面の様子を知りたい	+	電気・磁気・光の測定をしたい	+
どんなものが混ざっているか分離して分析してみたい	+	繊維・植物関連の設備を使いたい	+
表面を詳しく分析したい	+	3Dプリンターを使いたい	+
熱による特性を調べたい	+	特殊加工機を使いたい	+
寸法を精密に計測したい	+	その他	+

**シーズサーチ**  
一公設試が持つシーズも探せる一

- ・各公設試が持つ技術シーズの分野別検索が可能
- ・各シーズの概要がA4 1枚で簡潔にまとめられている

シーズ分野

環境	エネルギー	くらし
カーボンニュートラル	ニューモビリティ	バイオ・ロボティクス
健康・ウェルネス	ものづくり力向上	その他

